



2021年11月5日

各 位

会 社 名 ヘリオス テクノ ホールディング株式会社
代表者名 代表取締役社長 佐藤 良久
(コード番号 6927 東証第1部)
常 務 取 締 役
問合せ先 事業企画開発室室長 秋 葉 泰
兼 統 括 管 理 部 部 長
(T E L 0 3 - 6 2 6 4 - 9 5 1 0)

2022年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2021年5月7日に公表しました2022年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想と本日公表の実績値との差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績値との差異

(2021年4月1日～2021年9月30日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 4,880	百万円 △103	百万円 △93	百万円 △66	円 銭 △3.64
実績値 (B)	3,601	△74	△36	△21	△1.20
増減額 (B-A)	△1,279	29	57	45	
増減率 (%)	△26.2	—	—	—	
(ご参考) (2021年3月期第2四半期)	3,195	△169	△135	△191	△10.55

2. 差異の理由

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、ランプ事業において、産業用ランプの主力製品である露光装置用光源ユニット用ランプの出荷数が半導体不足や材料不足の影響から最終製品の完成が遅れるなどの影響により、計画を下回って推移しました。また、製造装置事業において、液晶パネルの増産に伴う設備投資が前倒しとなった一方、計画された配向膜印刷装置の立上作業が顧客の都合により延期されたほか、各顧客が研究・試作または量産向けに検討されたインクジェット印刷装置の導入時期を延期されるなど、想定した出荷数に至らなかったことにより、当初計画に対し売上高が減収となりました。

一方、引き続きの海外渡航制限などによる営業活動の制限及びコスト削減効果により、販売費及び一般管理費が計画を下回り、営業損失、経常損失、及び親会社株主に帰属する四半期純損失が当初計画に対しそれぞれ縮小しました。

なお、通期連結業績予想につきましては、2021年5月7日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記載は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上